追　悼　の　辞

本日ここに、御来賓の皆様並びに遺族の御参列をいただき、忠霊碑慰霊祭を挙行するにあたり、都城中央・西部・北部地区の戦没者並びに殉職者三〇五九柱の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

遠くは戊辰の役から大東亜戦争に至る戦いの中で、あるいは消防水難活動の中で尊い生命を失われました皆様のことは、私たちにとって永遠に忘れることのできない深い悲しみであります。私情を顧みず、ひたすら郷土の興隆と市民の安泰を念じつつ、大義に生きられたその崇高なる心情に深い感銘を覚え、心から敬愛の念を抱いております。

また、残された遺族の深い悲しみは、長く苦しい年月におよび、あらゆる苦難に耐えながら、家業に精励し、懸命に生き抜いてまいりました。

私どもの役目は、過去を振り返り、幾多の尊い犠牲がありましたことを語り継ぎ、あの悲惨な戦争の惨禍を繰り返さないよう恒久平和を確立することが御霊を鎮めることと確信しております。

私どもは、あなた方が残された尊い教訓をもとに、郷土のなお一層の繁栄に向けて、邁進してまいりますことを、ここにお誓い申し上げます。

終わりに、戦没者並びに殉職者の皆様の御霊の御冥福をお祈り申し上げますとともに、本日ここに御参列いただきました皆様の御多幸、御健勝を祈念申し上げまして、追悼のことばといたします。

令和八年十月二十四日

都城忠霊碑奉賛会

会長　瀬口　昭弘